



警告のニューズレター「角笛」

発行日：2017年12月発行（第92号）

発行：警告の角笛出版

価格：フリーペーパー

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

【目次】

◎巻頭メッセージ：「道を備える」 エレミヤ

◎時代を悟る「聖なるものと俗なるものとを区別しない祭司・ハロウィン」 H.F

◎お知らせコーナー 「本の紹介」

[巻頭メッセージ]

「道を備える」 by エレミヤ

本日は道を備える、という題でメッセージしたいと思います。再臨の主が来られる前に我々は主のために道を備え、誤った教理をただす必要がある、と聖書が語っていることを見ていきたいと思います。

＜バプテスマのヨハネは主の来臨のために道を備えた＞

新約聖書を読む時、イエスの前に来た預言者であるバプテスマのヨハネが主のために道を備えたことが書かれています。以下のとおりです。

マタイ 3:1 そのころ、バプテスマのヨハネが現われ、ユダヤの荒野で教えを宣べて、言った。

3:2 「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」

3:3 この人は預言者イザヤによって、「荒野で叫ぶ者の声がする。『主の道を用意し、主

の通られる道をまっすぐにせよ。』」と言われたその人である。

このヨハネの働きは旧約の預言者であるイザヤにより前もって預言されていた働きでした。そのイザヤの預言とはどのようなものでしょうか？以下の様に預言されていました。

イザヤ40:3 荒野に呼ばわる者の声がする。
「主の道を整えよ。荒地で、私たちの神のために、大路を平らにせよ。

40:4 すべての谷は埋め立てられ、すべての山や丘は低くなる。盛り上がった地は平地に、険しい地は平野となる。

40:5 このようにして、主の栄光が現わされると、すべての者が共にこれを見る。主の口が語られたからだ。」

＜何故道を備える必要があるのか＞

この箇所では主のために道を整えること、道を平らにすることが語られています。素朴な疑問として何故道を整え、道を平らにする必要があるのでしょうか？考えてみましょう。答えはそれほど難しくはありません。単純な

「道を備える」 by エレミヤ

＜聖書はクリスチャンでも実を結ばないなら、神の御怒りに会うことを語る＞

この箇所を見てみましょう。

マタイ3:7 しかし、パリサイ人やサドカイ人が大ぜいバプテスマを受けに来るのを見たとき、ヨハネは彼らに言った。「まむしのすえたち。だれが必ず来る御怒りをのがれるように教えたのか。」

ここでヨハネは旧約の神の民であり、神の奉仕を行い、神に仕えているはずのパリサイ人やサドカイ人に対して、彼らがまむしのすえであると非難しました。

まむしは蛇であり、エデンの園の蛇のように神のことばを曲げる罪についての非難と理解できます。そして彼らが神のことばを曲げ、蛇の道を歩むなら必ず、彼らが神の御怒りに会うことをヨハネは述べました。ですので、神の民であろうと、なかろうと神のことばを公然と曲げるような蛇の教理を語る人々に対しては、彼らは神の怒りを逃れられない、必ず神の怒りに会うということが聖書の主張なのです。

それは新約においても同じであり、艱難前だの誤った蛇のような教理を語る人々が必ず来る神の怒りを逃れることは難しいでしょう。間違えてはいけません。また今のキリスト教会の中では一旦クリスチャンになったら、決して滅びや裁きに会わない、という都合の良い教えがあるとのこと。

しかしそのような教えは、ここに書かれている、神の民であるパリサイ人へ語られた「まむしのすえたち。だれが必ず来る御怒りをのがれるように教えたのか。」とのことばとは異なります。それは神に仕えているはずのパリサイ人に対して「必ず御怒りが来る」

ことが語られているからです。そうです、たとえ神の民でも罪を犯すなら当然、神の怒りにあうということが聖書の主張なのです。さらに見ましょう。

3:9 『われわれの先祖はアブラハムだ。』と心の中で言うような考えではいけません。あなたがたに言うておくが、神は、この石ころからでも、アブラハムの子孫を起こすことができになるのです。

3:10 斧もすでに木の根元に置かれています。だから、良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。

ここでヨハネは『われわれの先祖はアブラハムだ。』と心の中で語る人々すなわち自分たちは神の選民のイスラエル人だから神の怒りにも裁きに会わない、と勘違いしている人々に対して、神の選民だ、というだけで、神の怒りやさばきを免れることはないことを語りました。イスラエル人だから決して神の怒りに会わないのではなく逆に、斧がすでにその木の根元に置かれており、よい実を結ばない木は火に投げ込まれることを語ったのです。このことばは、たとえであり、実は新約の我々に対してもこのことばを通して警告が語られているのです。何をいっているのかというと、新約のクリスチャンもまた新約のイスラエルであり、我々の信仰の先祖はアブラハムなのです。



バプテスマのヨハネ

「道を備える」 by エレミヤ

そのようなクリスチャンが「自分たちが救いから漏れることもさばかれることも無い」と思ってもそれは勘違いである、ということがこの箇所でも語られている警告なのです。我々クリスチャンの根元にも斧がすでに置かれており、良い実を結ばない木は火に投げ込まれるようになるのです。このことに気付かなければなりません。

<バプテスマのヨハネは終末の日のエリヤ>

このようにしてバプテスマのヨハネは主の初降臨の日にその警告の働きをしました。さて、主はこのようなバプテスマのヨハネとは実は来るべきエリヤであることを語りました。以下の通りです。

マタイ11:13 ヨハネに至るまで、すべての預言者たちと律法とが預言をしたのです。

11:14 あなたがたが進んで受け入れるなら、実はこの人こそ、きたるべきエリヤなのです。

エリヤが終末の日にやってきて警告を行うことはマラキ書に書かれています。以下の通りです。

マラキ 4:5 見よ。わたしは、主の大いなる恐ろしい日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。

4:6 彼は、父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる。それは、わたしが来て、のろいでこの地を打ち滅ぼさないためだ。」

ここには「主の大いなる恐ろしい日が来る前に」預言者エリヤが遣わされることが書いてあります。そして、エリヤは、「父の心を子に向けさせ、子の心をその父に向けさせる」ことが書かれています。すなわち、主の恐るべき御怒りの日の前に人々に悔い改めを促すことが書かれているのです。バプテスマ

のヨハネはこの預言の様に人々に悔い改めを促しました。しかし、すべての人が悔い改めたわけではありませんでした。特に当時の教師であるパリサイ人や律法学者たちは悔い改めず、その中でヨハネは殉教し、命を失いました。そして、ヨハネのことばを受入れない彼らは罪を重ね、ついには神の子イエスを捕らえ、十字架につけ、命を奪いました。そしてそれらの積み重ねられた罪に対して、神の御怒りが爆発し、西暦70年、神の民の都エルサレムはローマの攻撃の中で滅ぼされ、この都の人々は最後の一人まで命を失いました。このように、バプテスマのヨハネに関して福音書が語っていることは、彼の警告にもかかわらず、民も民の指導者も結局は悔い改めず、歩みをたださず、滅びに入ってしまったという悲しい結末です。同じことが終末に再現するかもしれません。

<エリヤは主の再臨の前に再度やってくる>

さて、このバプテスマのヨハネのこと、またエリヤが来ることの預言は主の初降臨のときだけで完結したわけではありません。むしろ、教会時代の終わり、終末の日にこの預言は本格的に成就すると理解できます。マラキ書に「見よ。わたしは、主の大いなる恐ろしい日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに遣わす。」と書かれています。主の大いなる恐ろしい日とは終末の主の日をさす表現であり、その日にこの預言は本番の成就を迎えるのです。そのエリヤが再度終末の日にくることに関しては以下の黙示録の預言の中で、語られています。

黙示録11:3 それから、わたしがわたしのふたりの証人に許すと、彼らは荒布を着て千二百六十日の間預言する。」

11:4 彼らは全地の主の御前にある二本のオリブの木、また二つの燭台である。

「道を備える」 by エレミヤ

11:5 彼らに害を加えようとする者があれば、火が彼らの口から出て、敵を滅ぼし尽くす。彼らに害を加えようとする者があれば、必ずこのように殺される。

ここで登場する2人の預言者にはエリヤの特徴があります。ですから彼らはかつてのバプテスマのヨハネの様に終末の日において、道を曲げる神の民に対して警告を行い、預言をするのでしょう。しかし、最後には彼らもヨハネの様に殉教して命を失うことが黙示録には預言されています。

<終末の日にも道を整える必要がある>

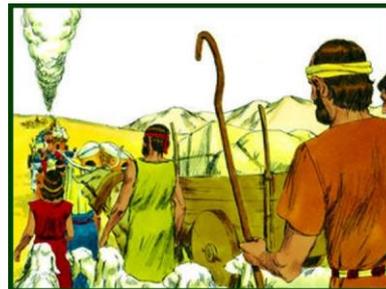
何故終末の日、主の再臨の前に再度エリヤが登場するのでしょうか？その理由は主の初降臨の前にエリヤ、すなわち、バプテスマのヨハネが現れた理由と同じです。それは、かつてのときのように、終末の日においても主のための道が備えられておらず、道が曲がっており、平らでなく、谷のように低くなったり、山のように高すぎたり、あるべき状態でないから、そのためなのです。消防自動車サイレンを鳴らして町を走るのはどこかで火事が起きたからです。同じ理由で終末の日にも再度エリヤが来る、ということは終末の日にも道が曲がっていることを暗示するのです。そして道を曲げているのは誰なのか、というとそれは教会の教師や牧師、指導者、聖書学者なのです。旧約の時代のパリサイ人や、律法学者に相当する人々が今、道を曲げているのです。

<今の教会の教理に問題がなく、道が曲がっていないなら、エリヤが来る必要はない>

そのようなわけで逆説的な言い方ですが、私たちはこのことを知らなければなりません。それは、私たちの思惑や思い込みと異なり、今の教会の教理には多くの曲がった教え、曲

がった道があり、あるべきところから谷のように低すぎたり、もしくは山のように高すぎる教理や道が多くある、という事実を知るべきなのです。そしてそうであるがゆえに再度エリヤは終末の日この地上に来て、教理や道を建て直すべく働きをし、警告をなすように定められているのです。病人がいないなら、医者が来る必要がないように、今の時代の道が曲がっていないなら、終末の日エリヤが遣わされる理由はないのです。しかし、事実エリヤが来ることはかねてから、預言されており、彼が来る理由はあるのです。

受入れがたいことかもしれませんが、今の時代の教会の教理は確かに曲がっています。艱難前携挙説は全く聖書とは異なる教えです。また、巷間いわれる一度クリスチャンになったら、救いから漏れることはない、裁かれることもない、とは聖書から逸脱した教えです。バプテスマを受けたクリスチャンであっても、その歩みが正しくないなら、滅びる可能性がある、とは聖書が明白に語る教理です。たとえば、1コリント10:1~6では、出エジプトし、荒野でバプテスマを受け、御霊の食べ物を食べ御霊の飲み物を飲んだ神の民の大部分が、荒野で滅ぼされてしまったことが描かれています。「バプテスマ、御霊の食べもの、御霊の飲みもの」とは新約の用語であり、すなわち、新約のクリスチャンも正しく歩まないなら滅びることが警告されているのです。そして、「これらのことが起こったのは、私たちへの戒めのためです。」1コリ10:6。ですからクリスチャンと名がつけば決して滅びることはない、などと聖書は語っていないことを知しましょう。—以上—



荒野の民は新約のクリスチャンの型

時代を悟る 「聖なるものと俗なるものとを区別しない祭司 ・ハロウィン」 H.F

時を悟りなさいと主は言われています。では今はどのような時代なのでしょう。

現在はかつてない程、占いや魔術が人々の間に広がっている時代といえるでしょう。映画や本で世界的に有名な「ハリーポッターシリーズ」や、オカルト的なゲームなども子供だけではなく大人達にも人気です。これらが流行したことにより、オカルト、魔術や呪文を唱えることなどは非常に身近な物となっているのです。また、先月ハロウィンの行事が日本でもあちこちで行われました。ハロウィンの本場はアメリカでは、何らかの形で70%の人々がハロウィンの祭典に参加しているといわれています。

ハロウィンは日本においては1990年初頭から次第に広がり始め、今では、あちこちで仮装パレードや催しがあり、商業的にも広く扱われるようになっていきます。多くの店ではハロウィンのオレンジ色のパンプキンの装飾がなされ、お菓子やグッズが販売されています。今や日本においても、ハロウィンは仮装したりお菓子をもらえたりと子どもたちの楽しい季節の行事になっているのです。10月末の東京の渋谷では、ハロウィンの仮装をした若者が溢れ、その中には、ゾンビや骸骨というおどろおどろしい仮装をする若者も多く見られます。若者にとってもハロウィンは仮装をして非日常を楽しむ行事となっているのです。

このハロウィンの起源は、古代ケルト人の祭りであり、もともとは、サーウェン祭というものでした。この祭りを、7世紀にグレゴリウス1世、ローマカトリック教皇により既存の異教徒の祝日や習慣をキリスト教化することを決めたことにより、万聖祭(All Saints Day / All Hallows Day)という既存のカトリックの祝祭に移したのです。古代ケルト人はこの

サーウェン祭りの時、心霊世界と現実世界の間の幕が引き上げられて、死者の霊魂と交わることができる信じていました。またこれは、死者の主、暗黒の魔王を称えるための祝祭でした。そして、この祭りには人間の犠牲、子供の生贄がささげられ、凄惨な儀式を伴うものでありました。このような恐ろしい異教徒の祭りがハロウィンの起源です。この祭りは、悪魔を称えるものであり、霊的にも非常に危険なものです。そして恐ろしいことに、これらは過去のものではなく現在でも悪魔礼拝をする人々が存在しており、彼らにとって、ハロウィンは非常に重要な日であるとされています。オカルトに関する有名な著者であるヨハンナ・マイケルソンはライトハウス・トレイルのサイトで、ハロウィンの危険性について警告の記事を載せています。また「1951年に英国で魔術取締法が廃止され、魔女、魔術使いは現在本格的な復活をし、今日のインターネット、ソーシャルメディアの世界で子供達、人々に影響を与えている」と述べています。今の時代にも悪魔礼拝する魔女、魔術師は多く存在しているのです。楽しい祭りと思ってハロウィンに参加することは、本人の預かり知らない間に霊的には悪魔の集会に参加していることになるのです。そしてオカルト的な悪影響を、知らない間に受けるので初期のアメリカにおいて、ハロウィンは有害なものとして、禁止されていたといえます。それが今ではアメリカで楽しい行事としてすっかり定着しています。

では、このハロウィンについて、今のキリスト教会ではどのように取り扱っているのでしょうか。霊的な悪影響が実際に起こることを認識しているのでしょうか。

クリスチャン・トゥデイ英国版で「教会がハロウィンを取り戻すべき理由」と言う記事で、チネ・マクドナルド(Chine McDonald)英国ワールド・ビジョンキリスト教感化・エンゲージメント部長は、ハロウィンによって福

時代を悟る 「聖なるものと俗なるものを区別しない祭司 ・ハロウィン」 H.F

音を伝えていくことを述べています。今年ワールド・ビジョンは「パンプキン・ヒーローズ」というカボチャのキャラクターを用い、子どもたちにハロウィンで福音を伝えるプロジェクトを行っています。悪霊的なものを用いて福音を伝えるというのです。

また、クリスチャン・トゥデイ(日本版10月31日)においても、ハロウィンの扱いについての記事が掲載されています。ハロウィンはクリスチャンが祝っても大丈夫なのか、という質問に対して、日本の著名な牧師が回答しています。ハロウィンの起源は異教的であること、現在ではアメリカでは民間行事として定着していることが説明され、危険であると反対する人も、平気な人もいるため、どちらに答えても批判されると述べています。そして選択肢として「第3の道」を示しています。ローマ14章のパウロの「中心的なテーマでなければどちらでもよい」という内容を参照し、中心的なテーマでないものを「グレーゾーン」として考えることを勧めています。そしてハロウィンの問題は、「グレーゾーン」であり、各人が判断すべきことだとしています。それが罪であると感じる人は参加すべきではなく、問題はないとする人は自分の良心と信仰に照らして参加しても良いとして、互いに相手の選択をあれこれと批判すべきではないと、述べられています。本人の信仰の度合いにより選択していくという回答は、一見、非常にバランスのとれた信仰的なもの感じられます。しかし、なぜハロウィンの問題が、「中心的なテーマ」ではなく「グレーゾーン」と判断するのでしょうか。

第一コリント10；20～21「いや、彼らのささげる物は、神にではなくて悪霊にささげられている、と言っているのです。私は、あなたがたに悪霊と交わる者になってもらいたくありません。あなたがたは、主の杯を飲んだうえ、さらに悪霊の杯を飲むことは、できないことです。主の食卓にあずかったうえ、さらに悪霊の食卓にあずかることはできないことです」とあります。ハロウィンは、悪

魔礼拝につながる信仰の根本的な内容「中心的テーマ」ではないでしょうか。決して「グレーゾーン」ではありません。霊的な危険性を本当に認識できているならば、各人に任せるといったレベルの問題ではないことは明白です。

エゼキエル22：26

その祭司たちは、わたしの律法を犯し、わたしの聖なるものを汚し、聖なるものと俗なるものとを区別せず、汚れたものときよい物との違いを教えなかった。また、彼らはわたしの安息日をないがしろにした。こうして、私は彼らの間で汚されている。

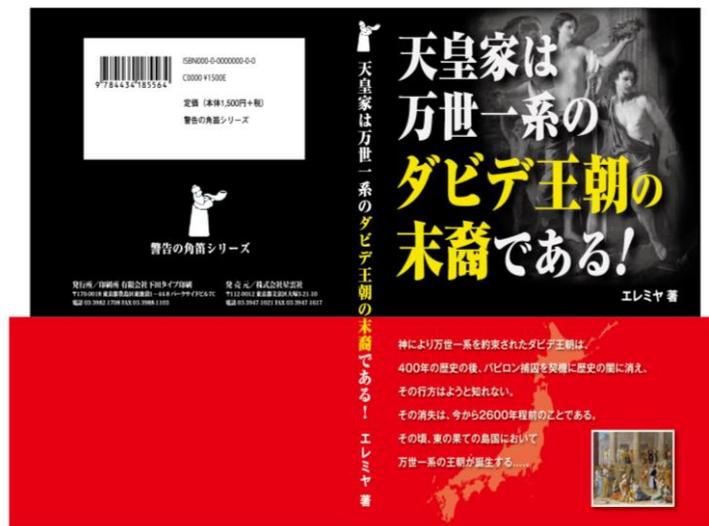
エゼキエル書では、当時の祭司たちが、神のおきてを正しく民に教えなかったことが記されています。教師が聖なるものと俗なるもの、異教の汚れたものと聖なるものを区別しなかったのです。教師としての責任を全く果たしていなかったのです。主は祭司に対して激しい怒りを注がれました。これは過去の出来事だけだ、といえるのでしょうか。教師が、聖いものと汚れたものとを正しく区別していないということでは、当時と全く同じだと言えないでしょうか。

コリント10；11「これらのことが彼らに起こったのは、戒めの為であり、それが書かれたのは、世の終わりに望んでいる私たちへの教訓とするためです。」とあります。私たちは、時を悟らなければなりません。



ハロウィンは悪霊的な祭り

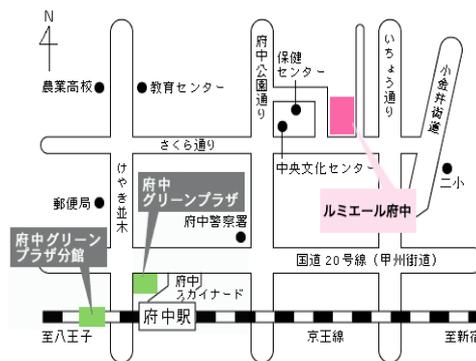
●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。
 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255
 mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30
 午後 14:00-16:00
 場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館
 (tel:042-360-3311)
 1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、
 「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。
 どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html

★教会のHPもあります。
 ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。
 尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

- ☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋
<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>
- ☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風
<http://whattopics.at.webry.info/>
- ☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス
<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>
- ☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家
<http://87494333.at.webry.info/>